

【ジェンダーフォーラム主催第51回ジェンダーセッション】

# リハビリテーション における 障害と性差の捉え方



話題提供：

八重田 淳  
先生

(筑波大学大学院人間総合科学研究科  
生涯発達専攻リハビリテーションコース准教授)

## GENDER SESSION vol.51

リハビリテーション(Rehabilitation)には、失われたものをもう一度取り戻すという意味がある。我々が過去に失ったもの、現在失いつつあるもの、将来的に失われるものの中には、人として持つべき当たり前の権利、幸せ、若さ、健康、誇り、愛、希望、職業、やる気、本来の自分らしさ等、さまざまなものが含まれる。したがって、リハビリテーションは「復権」、「社会復帰」、「更生」という概念を表すものとして用いられることも多い。我が国で一般的に「リハビリ」というと、「障害」のある人 (people with disability) の機能回復訓練を連想する人が圧倒的に多いことは事実である。例えば、「温泉リハビリ」とか「病院でのリハビリ訓練」といった表現である。リハビリテーションの法律があるアメリカでは、その対象をリハビリテーションサービスの恩恵を受け得る人々すべてとしている。人種差別、無知による偏見、障害の有無による差別などはすべてリハビリテーションの対象である。「障害×性差」をダブル・ハンディキャップあるいは二重差別として捉えるリハビリテーションの真の考え方が未だに浸透していない我が国にいることも、一つの障害なのである。

開催日：2010年**6月1日**(火)

時間：**18:30-20:30**

会場：立教大学池袋キャンパス

10号館 **X103**教室

申込：不要。どなたでもご自由にご参加ください。

問い合わせ先

立教大学ジェンダーフォーラム事務局

RIKKYO GENDERFORUM

〒171-8501 豊島区西池袋 3-43-1

ミツチエル館 1階

TEL&FAX:03-3985-2307

E-mail: [gender@rikkyo.ac.jp](mailto:gender@rikkyo.ac.jp)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/gender/>

【八重田淳氏プロフィール】 1991年 Southern Illinois University, Doctor of Rehabilitation (リハビリテーション博士 Rh. D.)。日本職業リハビリテーション学会運営理事、日本リハビリテーションカウンセリング協会代表、日本リハビリテーション連携科学学会常任理事、全米リハビリテーション協会国際専門理事、国際リハビリテーションカウンセリング協会国際専門委員等を歴任し、国際的に活躍する分野の第一人者。